

みずほマーケット・トピック (2017年11月17日)

週末版

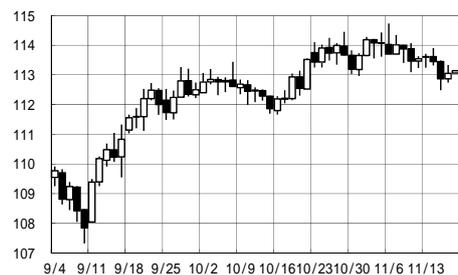
内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料
誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)
- 今週のドル/円相場は軟調な値動きとなった。週初 13 日に 113 円台半ばでオープンしたドル/円は、トランプ米政権が目指すクリスマスまでの米税制改革法成立に懐疑的な見方が広がる中で上値重く推移。メイ英首相に対し 40 人の保守党議員が不信任を表明する書簡への署名に同意したと報じられるとポンド/円が急落し、ドル/円は 113 円台前半まで連れ安となったが、ポンド/円の売り一巡後は米株上昇も相俟って 113 円台半ばまで値を戻した。14 日は大手邦銀による自己株取得が報じられ日経平均先物が上昇すると一時週高値となる 113.91 円まで買い進められたが、直ぐに 113 円台半ばまで売り戻された。さらに国際エネルギー機関(IEA)が今年と来年の石油需要見通しを下方修正したことを受け原油先物が急落し、米株が軟調に推移すると 113 円台前半まで続落した。15 日は日本株が今年最長となる 5 営業日連続の下落を記録する中、113 円近辺まで下落。さらに米 11 月 NY 連銀製造業景気指数が予想を下回り、米 10 年国債利回りが低下すると一時週安値となる 112.47 円をつけた。しかし、この水準では買い意欲がみられたほか、米金利が上昇に転じたため 113 円台前半まで急反発。その後は共和党のジョンソン上院議員が税制改革法案に反対を表明したことが嫌気され一時 112 円台後半まで売り戻されるなど軟調な値動きとなった。16 日は日経平均株価が昨日の下げ幅を戻す動きを受けて 113 円台前半までじり高の展開。米新規失業保険申請数や米 11 月フィラデルフィア連銀景気指数の予想を下回る結果を受けて 112 円台後半まで下落する時間帯もあったが、米金利上昇を横目にドル/円は 113 円台を回復した。本日は 113 円を割れ 112 円台後半で推移している。
 - 今週のユーロ/ドル相場は堅調に推移した。週初 13 日に 1.16 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週安値となる 1.1639 をつけたが、材料難となる中で下値を追う動きはみられず、その後はレンジ内での推移となった。14 日はドイツ 7~9 月期 GDP(速報)の結果が市場予想を上回ると急速にユーロ買いの流れが強まり 1.17 台半ばまで急伸。さらに米株の軟調推移を受けたドル売りに 1.18 近辺まで上値を切り上げた。ドル売り・ユーロ買いの流れは 15 日も継続し、ユーロ/ドルは一時週高値となる 1.1862 をつけた。しかし、米金利が上昇し始めると 1.17 台後半まで反落。その後は一時 1.18 近辺まで戻したが、米株の冴えない値動きを受けたユーロ/円の売りに上値を押さえられた。16 日は米下院による税制改革法案の可決を手がかりにややユーロ売りが優勢となったが、1.17 台後半での小幅な値動きにとどまり、本日も同水準で推移している。

今週のおもな金融市場動向 (出所: ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		11/10(Fri)	11/13(Mon)	11/14(Tue)	11/15(Wed)	11/16(Thu)
ドル/円	東京9:00	113.37	113.70	113.61	113.42	112.77
	High	113.63	113.71	113.91	113.49	113.33
	Low	113.22	113.25	113.32	112.47	112.74
	NY 17:00	113.54	113.62	113.45	112.87	113.05
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1646	1.1661	1.1665	1.1790	1.1784
	High	1.1678	1.1675	1.1805	1.1862	1.1801
	Low	1.1623	1.1639	1.1662	1.1785	1.1757
	NY 17:00	1.1666	1.1667	1.1798	1.1792	1.1770
ユーロ/円	東京9:00	132.02	132.55	132.52	133.72	132.89
	High	132.54	132.62	133.86	133.86	133.44
	Low	131.96	131.94	132.49	132.98	132.76
	NY 17:00	132.41	132.56	133.86	133.10	133.02
日経平均株価		22,681.42	22,380.99	22,380.01	22,028.32	22,351.12
TOPIX		1,800.44	1,783.49	1,778.87	1,744.01	1,761.71
NYダウ工業株30種平均		23,422.21	23,439.70	23,409.47	23,271.28	23,458.36
NASDAQ		6,750.94	6,757.60	6,737.87	6,706.21	6,793.29
日本10年債		0.04%	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%
米国10年債		2.40%	2.41%	2.37%	2.32%	2.38%
原油価格(WTI)		56.74	56.76	55.70	55.33	55.14
金(NY)		1,275.47	1,278.37	1,280.40	1,278.09	1,278.70

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、今晚に 10 月住宅着工件数の発表がある。9 月の住宅着工件数は前月比 4.7%の年率+112.7 万件と減少したが、一部地域ではハリケーンの影響で下押しされたとみられる。10 月はハリケーンによる下押しの反動が見込まれる中、住宅着工は前月比+5.4%の年率+118.8 万件、住宅建設許可件数は前月比+1.4%の年率+124.2 万件とそれぞれ増加する見通しである。また、来週 21 日(火)には 10 月中古住宅販売の発表が予定されている。9 月はハリケーンの影響が中古住宅販売を抑制したとみられるものの、先行指標である 10 月中古住宅販売留保指数は前月から横ばいとなった。販売件数の低下は従来から続く在庫不足の問題が根底にあり、今後も販売に対する重石になるとみられる中、市場では前月比+0.2%の年率+540 万件と予測されている。金融政策に関しては、22 日(水)にイエレン FRB 議長が講演を行う予定である。
- ・本邦では、20 日(月)に 10 月貿易統計の発表がある。10 月上中旬(1~20 日)分の貿易統計では、輸出は前年比+17.3%(9 月上中旬:同+14.8%)、輸入は同+26.4%(9 月上中旬:同+14.6%)となり、貿易収支は 1338 億円の赤字となった。報道によれば、輸出は自動車や鉄鋼、半導体などの製造装置が増加した。急増が目立った輸入は、原粗油や石炭、石油製品などの品目が増えたようだ。10 月の営業日数は上中旬が前年より1 日多く、輸出入の伸びに影響を及ぼしたとみられる。こうした状況を考慮し、市場では 10 月全体の輸出は同+15.7%、輸入は同+20.2%と予想されている。また、貿易収支 3300 億円の黒字、季節調整値では 1975 億円の黒字が見込まれている。

	本 邦	海 外
11 月 17 日(金)		・ユーロ圏 9 月経常収支 ・EU 経済・財務相理事会(ECOFIN) ・米 10 月住宅着工
20 日(月)	・10 月貿易統計	・米 10 月景気先行指数
21 日(火)		・米 10 月シカゴ連銀全米活動指数 ・米 10 月中古住宅販売
22 日(水)		・米 10 月耐久財受注(速報) ・米 11 月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・FOMC 議事要旨(10 月 31 日~11 月 1 日開催分)
23 日(木)	勤労感謝の日	・独 7~9 月期 GDP(確報) ・ユーロ圏 11 月製造業/サービス業/総合 PMI(速報) ・ECB 政策理事会議事要旨(10 月 26 日開催分) ・米感謝祭(サンクスギビング・デー)
24 日(金)	・9 月景気動向指数(確報)	・独 11 月 Ifo 企業景況指数

【当面の主要行事日程(2017 年 11 月~)】

- 米 FOMC(12 月 12~13 日、1 月 30~31 日、3 月 20~21 日)
- ECB 政策理事会(12 月 14 日、1 月 25 日、3 月 8 日)
- 日銀金融政策決定会合(12 月 20~21 日、1 月 22~23 日、3 月 8~9 日)
- 石油輸出国機構(OPEC)総会(11 月 30 日)
- 米連邦債務法定上限引き上げ期限(12 月 8 日)
- EU 首脳会議(12 月 14~15 日)
- 中国中央経済工作会議(12 月中)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2017年11月)

月	火	水	木	金	週末
		1 日本 自動車販売台数(10月) 米国 ADP雇用統計(10月) 米国 ISM製造業景気指数(10月) 米国 建設支出(9月)	2 日本 マネタリーベース(10月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、10月)	3 日本 文化の日 米国 雇用統計(10月) 米国 失業率(10月) 米国 貿易収支(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(10月) 米国 製造業新規受注(9月) 米国 耐久財受注(確報、9月)	
6 ドイツ 製造業受注(9月) ユーロ圏 サービス業PMI(確報、10月)	7 日本 毎月勤労統計(9月) ドイツ 鉱工業生産(9月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) 米国 消費者信用残高(9月)	8 日本 景気動向指数(速報、9月)	9 日本 国際収支(9月) 日本 貸出・預金動向(10月) 日本 景気ウォッチャー調査(10月) ドイツ 貿易収支(9月) 米国 卸売売上高(9月)	10 日本 マネーストック(10月) 日本 第三次産業活動指数(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、11月) 米国 財政収支(10月)	
13 日本 国内企業物価(10月)	14 ドイツ GDP(速報、7-9月期) ドイツ 消費者物価(確報、10月) ユーロ圏 鉱工業生産(9月) ユーロ圏 GDP(速報、7-9月期) 米国 生産者物価(10月)	15 日本 GDP(速報、7-9月期) 日本 鉱工業生産(確報、9月) ユーロ圏 貿易収支(9月) 米国 消費者物価(10月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(11月) 米国 小売売上高(10月) 米国 企業在庫(9月)	16 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、10月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(9月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(11月) 米国 鉱工業生産(10月)	17 ユーロ圏 経常収支(9月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) 米国 住宅着工(10月)	
20 日本 貿易収支(10月) 米国 景気先行指数(10月)	21 米国 シカゴ購買部協会景気指数(10月) 米国 中古住宅販売(10月)	22 米国 耐久財受注(速報、10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、11月) 米国 FOMC議事要旨(10月31日-11月1日開催分)	23 日本 勤労感謝の日 ドイツ GDP(確報、7-9月期) ユーロ圏 製造業PMI(速報、11月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、11月) ユーロ圏 ECB理事会議事要旨(10月26日開催分)	24 日本 景気動向指数(確報、9月) ドイツ IFO企業景況指数(11月)	
27 日本 企業向けサービス価格(10月) 米国 新築住宅販売(10月)	28 米国 S&P500ロジックケース・シラー住宅価格(9月) 米国 消費者信頼感指数(11月)	29 ドイツ 消費者物価指数(速報、11月) 米国 GDP(2次速報、7-9月期) 米国 個人消費(2次速報、7-9月期) 米国 PCEコアデフレーター(2次速報、7-9月期) 米国 ページュブック	30 日本 鉱工業生産(速報、10月) 日本 新設住宅着工(10月) ユーロ圏 失業率(10月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、11月) 米国 個人消費・所得(10月)		

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2017年12月)

月	火	水	木	金	週末
2				1 日本 失業率(10月) 日本 家計調査(10月) 日本 全国消費者物価(10月) 日本 東京都都区消費者物価(11月) 日本 自動車販売台数(11月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、11月) 米国 ISM製造業景気指数(11月) 米国 建設支出(10月)	
4 日本 マネタリーベース(11月) 米国 製造業新規受注(10月) 米国 耐久財受注(確報、10月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、11月) ユーロ圏 GDP(確報、7-9月期) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) 米国 貿易収支(10月) 米国 ISM非製造業景気指数(11月)	6 ドイツ 製造業受注(10月) 米国 ADP雇用統計(11月)	7 日本 景気動向指数(速報、10月) ドイツ 鉱工業生産(10月) 米国 消費者信用残高(10月)	8 日本 貸出・預金動向(11月) 日本 GDP(確報、7-9月期) 日本 毎月勤労統計(10月) 日本 景気ウォッチャー調査(11月) ドイツ 貿易収支(10月) 米国 雇用統計(11月) 米国 失業率(11月) 米国 卸売売上高(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、12月)	
11 日本 マネーストック(11月)	12 日本 国内企業物価(11月) 日本 第二次産業活動指数(10月) 米国 生産者物価(11月) 米国 財政収支(11月) 米国 FOMC(-13日)	13 ドイツ 消費者物価(確報、11月) ユーロ圏 鉱工業生産(10月) 米国 消費者物価(11月)	14 日本 鉱工業生産(確報、10月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) 米国 小売売上高(11月) 米国 企業在庫(10月)	15 日本 日銀短観(10-12月期) ユーロ圏 貿易収支(10月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(12月) 米国 鉱工業生産(11月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(10月)	16
18 日本 貿易収支(11月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、11月)	19 ドイツ IFO企業景況指数(12月) 米国 住宅着工(11月)	20 ユーロ圏 経常収支(10月) 米国 中古住宅販売(11月) 日本 日銀金融政策決定会合(-21日)	21 米国 GDP(3次速報、7-9月期) 米国 個人消費(3次速報、7-9月期) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(12月) 米国 PCEコアデフレーター(3次速報、7-9月期) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(11月) 米国 景気先行指数(11月)	22 米国 個人消費・所得(11月) 米国 耐久財受注(速報、11月) 米国 新築住宅販売(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、12月)	
25 日本 景気動向指数(確報、10月)	26 日本 失業率(11月) 日本 家計調査(11月) 日本 全国消費者物価(11月) 日本 東京都都区消費者物価(12月) 日本 企業向けサービス価格(11月) 米国 S&P500ロジックケース・シラー住宅価格(10月)	27 日本 新設住宅着工(11月) 米国 消費者信頼感指数(12月)	28 日本 鉱工業生産(速報、11月)	29 ドイツ 消費者物価(速報、12月)	

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年11月15日	本邦7-9月期GDPを受けて-「デフレ脱却宣言」も視野？-
2017年11月14日	一定早い「2017年の為替相場」振り返り
2017年11月13日	利上げでも買えないボンドの苦境-BOE利上げの読み方-
2017年11月10日	週末版(円相場の基礎的需給環境-気がかりな需給と実勢相場の「ねじれ」~)
2017年11月8日	「常識的な論点」から見直したい相場の現状
2017年11月7日	「薄氷の上昇」と懸念すべきドル/円相場の現状
2017年11月6日	パウエル理事の議長指名を受けて-意識すべき論点-
2017年11月2日	週末版(FOMCを終えて-「危ない橋」を渡り続けるFRB~)
2017年11月1日	日銀金融政策決定会合を受けて-最もビュアな片岡委員-
2017年10月31日	メインシナリオへのリスク点検-日米FTAと欧州政治-
2017年10月30日	ECB政策理事会を終えて-「弱気な強気」の正常化-
2017年10月27日	週末版
2017年10月24日	「円安なき日本株上昇」の実態と危うさ
2017年10月23日	衆院解散総選挙を受けて-増税可否、日銀人事、政策への影響-
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年9月分)
2017年10月20日	週末版
2017年10月19日	為替政策報告書と日米経済対話-忍び寄る日米FTA-
2017年10月18日	ECB政策理事会プレビュー-「腫れ物」を触るかのような正常化-
2017年10月17日	「優等生の右傾化」が示唆する欧州のリスク
2017年10月16日	G20財務相・中央銀行総裁会議-最後のショイブレ節-
2017年10月13日	週末版(内部留保課税を巡る論点整理-何が正しくて、間違っているのか~)
2017年10月12日	FOMC議事要旨-危うい法廷弁護士のごとき政策運営-
2017年10月11日	円相場の基礎的需給環境-円高地合い続く-
2017年10月10日	米9月雇用統計を受けて-過信は禁物-
2017年10月6日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月7日開催分)-APPIは「小さく減らして長く延長」が有力~)
2017年10月5日	正規雇用の賃金は本当に上がるのか?
2017年10月4日	好調過ぎる日銀短観に見る危うさ
2017年10月3日	「賃金と雇用の断絶」に関するIMF分析について
2017年10月2日	カタール-リビア混戦と反EU機運の関係性について
2017年9月29日	週末版
2017年9月27日	次期ECB総裁人事に関する現状整理
2017年9月26日	メインシナリオへのリスク点検-本邦政局リスクは後退-
2017年9月25日	日銀金融政策決定会合を終えて-「寝た子を起こす」反対票-
2017年9月22日	週末版
2017年9月21日	FOMCを終えて-短期は強気、長期は弱気金利見通し-
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年8月分)
2017年9月20日	衆議院解散・総選挙の為替、日銀総裁人事への影響などについて
2017年9月15日	週末版
2017年9月14日	日銀金融政策決定会合プレビュー-総括的「再」検証も視野に-
2017年9月13日	ユーロ圏金融状況指数(MCI)に見るユーロ高の影響などについて
2017年9月12日	クーレ理事発言の真意-ユーロ高はもう看過できない-
2017年9月11日	円相場の基礎的需給環境-ドルインデックス半値押しで思うこと~
2017年9月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて-解せないユーロ買ひ~)
2017年9月7日	タカ派の劣勢が強まるFOMC-フィッシャー辞任を受けて-
2017年9月6日	追い込まれる日銀-倒錯した政策運営の現状・展望-
2017年9月5日	ECB政策理事会プレビュー-テーパリングまで至るのか?-
2017年9月4日	ユーロ買ひに対する現状認識について
2017年9月1日	週末版
2017年8月30日	メインシナリオへのリスク点検-急浮上してきた地政学リスク-
2017年8月29日	北朝鮮ミサイル発射と円急騰を受けて
2017年8月28日	ジャクソンホール講演-イエレン・ドラギ講演のレビュー-
2017年8月25日	週末版
2017年8月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年7月分)
2017年8月18日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(7月20日開催分)-強まる為替への問題意識~)
2017年8月17日	FOMC議事要旨を受けて-疑われるフィリップス曲線-
2017年8月16日	17年上半期の対米証券投資-下半期に向けてのみどころ-
2017年8月15日	米インフレ期待の現状について-NY連銀消費者調査-
2017年8月14日	VIX急騰で断たれるキャリア取引の芽と不安な米株調整
2017年8月10日	週末版
2017年8月9日	2017年上半期の円の基礎的需給環境などについて
2017年8月8日	技術的難しさが極まるECBの量的緩和の現状
2017年8月7日	米7月雇用統計-加速しない賃金と伸び悩む「質」~
2017年8月4日	週末版(ユーロ圏のフィリップス曲線の現状-フラット化して下方シフト~)
2017年8月3日	フォワードルッキングという幻想-OECD景気先行指数を通じて-
2017年8月2日	フォワードルッキングという幻想-日銀議事要旨が示唆する戒め-
2017年8月1日	実効相場で考えるドル相場の現状-調整は始まったばかり-
2017年7月28日	週末版(メインシナリオへのリスク点検-新しいリスクは「安倍退陣」と「正常化ブーム」~)
2017年7月27日	FOMCを終えて-後任人事を見据えてハト派化も?-
2017年7月26日	ECB政策理事会の読み方-シントラ発言の火は消せず-
2017年7月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年6月分)
2017年7月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を受けて-次の論点は外交的視点~)
2017年7月20日	最近のユーロ相場について-投機筋、PPP、金利差-
2017年7月19日	ECB政策理事会プレビュー-「火に油」を避けるべく...~
2017年7月14日	週末版(ドル/円相場の水準感について-現状の「異常さ」を見つめ直す~)
2017年7月13日	イエレン議会証言を受けて-花道の正常化は続く模様-
2017年7月12日	EU回帰でドイツは変わるのか?
2017年7月11日	正常化ブームの中で考えたい各国中銀の立ち位置
2017年7月10日	円相場の基礎的需給環境-円キャリアの兆候はあるか?-
2017年7月7日	週末版(ECB政策理事会議事要旨-ドラギ総裁はしじった模様~)
2017年7月6日	FOMC議事要旨-正常化は資産バブル対応?~
2017年7月5日	ECB版テーパ・タントラムの現状と展望
2017年7月4日	ドル安・円安の読み方-「正常化」ブームは流れを変えるのか~
2017年7月3日	都議選の影響を考える-新しいリスクの浮上-
2017年6月30日	週末版
2017年6月28日	ドラギ講演を受けて-「一時的」が流行る風潮の危うさ-
2017年6月27日	メインシナリオのリスク点検-引き続き目立つ円高材料-
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年5月分)
2017年6月26日	ブラトECB理事発言を考える-影響力は侮れず-
2017年6月23日	週末版
2017年6月22日	対内・対外証券投資の近況-リセットされたトラントレード-
2017年6月21日	カジュカリ・エッセイから学ぶこと-信仰(faith)とデータ(data)-